

決で行われた。

会場入り口では出席者の検温、手指の消毒を実施。書面による議決権行使の199人を含め212人が出席した。

林組合長は「農畜産物取扱高が史上最高となった結果を励みに、さらに意欲をもって歩みを進めていかなければならないと決意を新たにしている」とあいさつした。

農業総生産額 2.4%増 過去2番目の239億円 J A おとふけ

2020年6月6日

【音更】J A おとふけ（笠井安弘組合長、正組合員1,138人）の第64回通常総代会が5日、同J A 事務所で開かれた。2019年度の農業総生産額（交付金、共済金含む）は、前年度比6億円、2.4%増の239億円に上った。

17年度に記録した246億円に次いで過去2番目の数字で、5年連続で200億円を突破した。

小麦など農産物の販売額は、記録的な高温や干ばつなどに見舞われ、ほ場間の収量差が大きかったが、同21%増の100億円を記録した。需給がひっ迫している小豆、金時については、過去10年で最も高い18年産を上回る価格水準となった。

青果は主力のニンジンを含めて市場価格が前年を下回る品目が多く、同23%減の33億円。

畜産事業では、良質な粗飼料の確保や乳価の上昇により、生乳の取扱額が47億2,000万円（生産量4万6,083ト

ン）と過去最高に。個体販売は市場価格が高値だった前年を下回るも、乳用牛が9億4,400万円（計画比56%増）、肉用牛が13億5,600万円（同6%増）だった。

経常利益は2億9,753万円、当期剰余金は経費削減などで、計画（1億8,700万円）を上回る2億5,896万円を計上した。

総代会には総代250人のうち書面を中心に243人が出席。笠井組合長は「新型コロナウイルスの影響で外食産業や学校給食の消費が減退し、組合員の生産する農産物にも影響が出た。今後も感染防止に職員一丸となって取り組んでいく」とあいさつした。

販売高 過去最高234億円 生乳生産量6%増 J A 上士幌町

2020年6月11日

【上士幌】J A 上士幌町（小椋茂敏組合長、組合員197人）の通常総会が9日、同J A で開かれた。2019年度の農畜産物販売高は、酪農の規模拡大が進み生乳生産が伸びたことなどから、前年度比1%増で過去最高の234億4,200万円（交付金など含む）となった。

総会では新型コロナウイルス感染防止のため書面議決で行われた。

農畜産物販売高の内訳は、農産物総体の生産は平年並みで、1.3%減の35億2,300万円、畜産関連の個体販売は乳用牛が値下げ傾向で肉用牛は横ばい。生乳生産量は6.3%、7,057トン増の11万9,578トン。金額は乳価の引き上げもあり、9.6%増の122億5,100万円と伸びた。畜

産全体では同1.3%増の199億1,900万円。

経常利益は2億4,997万円、当期末処分剰余金は2億5,545万円を計上した。小椋組合長は「新型コロナによる農畜産物の単価などへの影響はこれから本格的に出てくるだろう。早期に収束し外食産業が正常に戻ることを願っている」と話した。

販売高457億円 2年連続大台突破 J A 士幌町

2020年6月11日

【士幌】J A 士幌町（篠原末治組合長、正組合員636人）の通常総会が11日午前10時、農業会館で開かれた。2019年度の農畜産物販売高（交付金・共済金を含む）は前年度比0.7%減の457億9,000万円で、2年連続で450億円の大台を突破した。

新型コロナウイルスの感染防止のため、書面議決を中心に開催。587人（本人31人、書面556人）が出席した。

酪農は粗飼料の品質が良く乳価も上昇し、生乳量、販売額とも過去最高を記録した。乳量は2.9%増の9万5,790トン、販売高は2.7%増の96億6,000万円だった。

肉牛は、「しほろ牛」の販促を展開して前年並みの245億2,000万円となった。畜産全体は0.4%減の347億7,000万円。

畑作は1.5%減の110億2,000万円。ジャガイモは傷などが少なく製品歩留まりも高かったが、加工用は成熟期